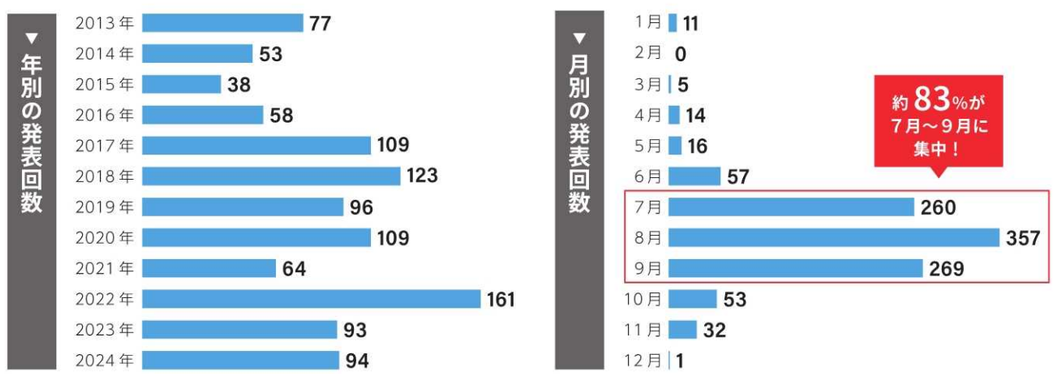
―特集―

大雨・台風に備える

初夏から秋にかけては、集中豪雨や台風、前線の影響で大雨や洪水、暴風、高潮などによる自然災害が発生しやすい季節です。この時期になると全国各地で災害が発生しているほか、京都府内でも毎年のように被害が発生しています。大雨や台風による被害を最小限に抑え、いざというときにご自身や家族が「命を守る行動」がとれるように、日ごろから防災に対する意識を持ち、正しい情報を収集する手段を事前に確認しておきましょう。

記録的短時間大雨情報の発表状況

出典：国立情報学研究所「記録的短時間大雨情報データベース」を参考に作成



できていますか？大切な人や家族の命を守る準備。

大陸と海に挟まれている日本。季節の変わり目には前線が停滞し、大雨を降らせます。また、台風が日本付近を通過するときも、広範囲にわたり大雨を降らせることがあります。近年は、突然激しい雨に見舞われる「ゲリラ豪雨」に加え、積乱雲が同じ場所で次々と発生する「線状降水帯」により、激しい雨が数時間にわたって降り続き、局地的に数百ミリの雨量を観測することもあります。

大雨などの災害から大切な命を守るには、日ごろから防災に対する関心を高めるとともに、気象庁や自治体が発信する気象・防災情報を正しく入手することが大切です。

【記録的短時間大雨】大半は7月～9月

2013年から短時間の内に記録的な雨量が観測される際に発表される「記録的短時間大雨情報」。いわゆるゲリラ豪雨とも言われ、2024年までに1075回発表され、約83％が7月から9月までの3ヵ月間に集中しています。また、気象官署別の発表回数では、京都地方気象台が35回となっており、全国で4番目に多い数字となっています。

情報を取集する方法

―災害リスクを確認

災害が発生してからではなく、事前に住んでいる場所などの災害リスクを把握しておくことが重要です。京都府が提供する「マルチハザード情報提供システム」では、住所を入力すれば、その場所の洪水時の想定浸水深や土砂災害計画区域などをピンポイントで知ることができます。

また、与謝野町が作成・配布している「洪水・土砂災害ハザードマップ」では、野田川や三田川、男山川が氾濫した場合に想定される浸水区域のほか、避難施設などの防災施設を掲載しています。家から避難場所までの道順を事前に確認しておけば、災害時の迅速な行動にもつながります。

※ 洪水・土砂災害ハザードマップは、役場各庁舎の窓口で配布しています

―リアルタイムで確認

気象庁が提供する「キキクル（危険度分布）」は、大雨や洪水による災害の危険が、どこで、どのレベルで迫っているかを、地図上で5段階に色分けをして視覚的に知ることができます。危険度の情報は10分ごとに更新され、最大3時間先までを予測した危険度が確認できます。

京都府マルチハザード情報提供システム　WEBサイト ▶

出典：京都府マルチハザード情報提供システムを編集

キキクル（危険度分布）（気象庁）　WEBサイト ▶

出典：キキクルを編集